

絵本塾 2016年
おはなしのへやだより 4月



桜前線が南から北へとのぼっています。待ちに待った季節の到来、木々が芽吹き、花開いて春の訪れを告げてくれます。小鳥たちのさえずりの声も春到来の喜びを感じさせてくれます。

どの地においても、幼子から青年まで、フレッシュマンたちの初々しい笑顔がはじけ、若々しい声が遠くから近くから、多くの人々の耳に届いているのではないのでしょうか。

喜びと希望に満ちて新しい歩み、はじめの一步を踏み出した子どもたちの羽ばたきが、途中で閉じられてしまうことのないように、応援、励ましなどが適切になされるといいなと思っています。もちろん、ヤング・ママ達も応援しています。絵本塾・おはなしのへやにおいでください。くつろいでくださいね。

2016年 5月のご案内

日時 5月13日(金) 午前10:30~12:00 昼食
場所 日本キリスト改革派 浜松教会 (お問い合わせ:望月鈴子へ)
(432-8022) 中区山手町45-3 ☎:053・453・1694
会費 500円(一人でも親子何人でも) 講座、昼食、お便り

<Part I> 一緒に遊ぼう <Part II> 絵本から考える
手遊び、リズム遊び、絵本:ねえ、おきてる?
絵本 ソフィー・ブラックオール 作
パネル・シアター もとしいづみ 訳 光村教育図書
他 テーマ:このお母さん、すてき!



心に語りかける絵本

何がおもしろい? 愉快をさがす

日常子どもたちが遊んでいる姿を見ていると、子どもは<おもしろい・愉快・楽しい...>等を見つける天才だと思える場面に出会うことが結構あると思いませんか。

絵本:ぶたぶたくんのおかいもの
土方久功 さく/え
福音館書店

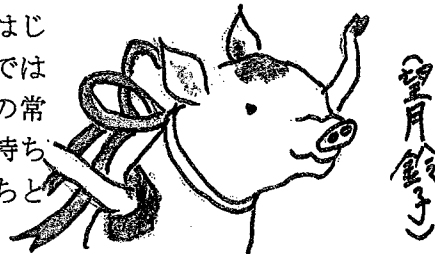
「ぶたぶたくんのおかいもの」は、大人には何とも言えないおかしな世界、シュールな世界かなと思えますが、子どもたちはこの絵の中にいろいろな面白さやおかしさを見つけるようです。洗練された絵とはとても思えないし、美しいとかきれいとかでもありません。ただ、絵本を手にとって表紙を見、パラパラとめくると、思わずクスッと声もれそうなおかしさがあります。1970年に福音館書店から出版されました。それが1985年に<子どものとも傑作集>としてハードカバーになりましたから、爆発的に売れたわけではないですが、密やかに人気があった絵本だと言えるのだと思います。

私の親しい友人、三人の子どもさんがまだ小さい頃、読んであげると三人とも“受ける受ける!!”状態だったようです。何がそんなに面白い?

- ①主人公のぶたぶたくんの目がゴミみたいておかしい。
- ②パン屋のおじさんの顔、ヘアスタイル、売っているパン(顔パン)、背景の富士山、ほそーい一本道、何故かとんでいるヘリコプター、全てがおかしい。
- ③八百屋のお姉さんがスーツを着ていて、上着の裾がギザギザでおかしい。
- ④ぶたぶたくんと、かあこちゃんと、こぐまくんの帰る道に矢印がついていておかしい。
- ⑤最後のページの「ぶたぶたくんのあるいたみち」(地図)の絵と字がおかしい。

と、次々と面白い、おかしいが挙げられて大受けだったということでした。この話を聞いて、私もじっくりと面白い・おかしいを探してみました。遊び心を持って見ていくと、おかしい事、えっと思う事、あれやこれやたくさんありました。最後の地図のページは、「ぶたぶたくんのあるいたみち」が矢印で示されていて、絵本の全体を反芻して確認し、楽しむのにもってこいだと思いました。絵のおかしさだけでなく、文もなんとも言えないシュールさ、ナンセンスさがあって妙に残るのです。作者の土方氏の奥様によると、土方氏は子どもが大好きで、生き物、ガマ、鳥などを愛したということです。彼自身の中に子どもの感性が生き生きと息づいていて、洗練された絵本ではないけれども、子どもの心を惹きつける力を持つ一冊となったのではないかと思います。

子育ての日々は、朝の目覚めから夜のおやすみまで、気の抜けない時間の連続です。子どものあどけない笑顔、喜びの声は親にとって慰め、励ましですが、ぐずったり、言う事をきかなかったり、考えているように動いてくれなかったりすると途方に暮れることもあります。一日を終えて、子どもが安らかな寝息をたてはじめたら、ようやくホッと肩の荷が下りた感じになるのではないのでしょうか。そんな日々の中であって、心を大人の常識にがんじがらめにかからめとられないで、らくーな気持ちで<面白いや、おかしい、愉快をさがす>を子どもたちと楽しんでみるのもいいかと思いますが...



望月鈴子